

平成 30 年始動



写真は(株)高知県林材 1/24、最後の天然魚梁瀬杉一連材に販売価格 548 万円の値が付きました。

高知県内の木材業界にとって今年一年が良い年でありますように。
各木材市場では初市が開催され、いずれの市も多数の人で盛り上がりました。



(協)西部木材センター 1/19



(株)ゲンボク市場 1/17

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

平成 30 年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様をはじめ、関係する皆様方から旧年中に賜りましたご支援、ご指導に心よりお礼申し上げます。

議員提案により「高知県県産木材の供給及び利用の促進に関する条例」が平成 29 年 4 月 1 日に施行になったことを受けて、8 月から 9 月にかけて、当協会が高知県森林組合連合会と連携して全市町村へ県産木材の供給と利用の促進要請活動（①森林の整備、生産基盤の整備、加工・流通体制の整備等による木材供給の促進、②県産木材の利用・普及のさらなる推進、③公共建築物の木造化・木質化のさらなる推進、④非公共建築物の木造化・木質化の推進、⑤県と市町村と関連業界団体との緊密な連携強化、⑥木造を含む公共建築物の整備に係る補助・融資制度の活用）を行いました。その結果、市町村によって利用推進への取り組みに温度差があること、木造建築物設計士が少ないことなどいくつかの課題が認められましたので、今後は県行政や関連団体等と連携を密にしてそれらの課題を改善できるよう取り組んで参ります。

また、昨年は 5 年ぶりに魚梁瀬杉が伐採され県内の原木市場に出展されて久しぶりに賑わいを呈しましたが、資源保護の観点から今年から伐採が休止されています。今後の予定としては、約 10 年後に樹齢 130 年生の人工の魚梁瀬杉が供給されることになっています。それまでに大径材を伐採する技術や製材する技術を継承していくことが重要となることから、後継となる担い手育成や環境整備にも取り組む必要があります。

昨年末に、①森林環境税と森林環境譲与税が平成 31 年度から創設されること、②森林環境税は平成 36 年度から課税されること、③森林環境譲与税の市長村及び都道府県への配分は平成 31 年度から前倒しで行い税収がない間は借入金で対応することなどが決定され、事実上、森林整備のための新財源が誕生することになりました。配分額は、当初の 200 億円から段階的に増やされ、平成 45 年度には 600 億円になり、これによって森林整備や木材利用が継続的に促進されることが期待されます。

木材業界を取り巻く状況をみますと、木材需要の大宗を占める住宅着工戸数が引き続き好調で昨年でも 90 万戸を超えることが予想されていますが、中長期的には大幅に減少していくことが避けられないことから、木材需要の維持拡大を図るためには、これまで取り組んできました地産外商に向けた販売戦略をさらに強化するとともに、非住宅分野への進出や、医療・福祉・スポーツ等の民間団体等が行う公共建築物の木造化・木質化を進めることが重要です。これらを実現させるためには、関連する業界や機関と連携して、国や県が取り組む関連事業を積極的に活用させていただきながら、対策を講じられるよう取り組んで参りますので、一層のご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、本年が皆様にとって素晴らしい年でありますよう祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。

一般社団法人高知県木材協会 会長 小川 康夫



新年祝賀名刺交換会

土佐緑友会主催の新年名刺交換会が、1月4日、ザ・クラウンパレス新阪急高知に於いて開催されました。尾崎知事、浜田県議会議長などの来賓を迎え、県内の林業団体関係者 187 人の出席がありました。木材協会からは小川会長・野地専務が出席しました。



北川村温泉ゆずの宿 CLT 建築構造見学会



北川村温泉は CLT 工法で建設される日本初の温泉施設です。

1月24日(水)に現地で構造見学会が開催されました。

今年6月にオープン予定です。出来上がったらは是非、ひと風呂浴びに行ってみて下さい。

延床面積：1475.74 m²

構造：CLT 造+RC 造(一部木造)

木材使用量：CLT449.28 m³

その他 148.18 m³

合計 597.46 m³



準耐火構造が要求されるため一部は RC 造



丁度クレーンで CLT を設置しているところ



完成すれば窓からは北川村の美しい景色が見える



CLT の現し建築を実現します

高知県は CLT 先進県

これまでの建築事例です。

① 高知おおとよ製材社宅 H26.3 完成 	② 窪津漁業協同組合 H28.1 完成 	③ 高知県森林組合連合会 H28.3 完成 
④ 県立農業担い手育成センター H28.5 完成 	⑤ 田井高齢者福祉施設 H28.5 完成 	⑥ 高知県自治会館 H28.9 完成 
⑦ ST 柳町 I H29.6 完成 	⑧ 宿毛商銀信用組合 H29.6 完成 	⑨ 県立林業大学校 H29.10 完成 
⑩ 馬路村森林組合 H29.11 完成 	⑪ はるのガーデン(工事中) H30.3 完成予定 	⑫ 北川村温泉(工事中) H30.5 完成予定 

一部の写真は日本 CLT 協会の HP などから転写しました

以下は現在工事中または計画中の県内 CLT 建築物です。

- ⑬ 溝渕林業(株)事務所(工事中)
- ⑭ (株)トラスト建設事務所(工事中)
- ⑮ 四国森林管理局嶺北森林管理署(工事中)
- ⑯ 心の教育センター(設計中)

土佐材流通促進協議会

展示会事業

① 大阪木材相互市場(株) 第2回高知県産材フェア

開催日：平成29年12月12日(火)

場所：大阪市港区市岡

大阪木材相互市場内浜間屋

(株)汐見

(株)タニカ

(株)吉原商店

来客数：謝恩市来客 約200人

土佐材の販売量：約280m³

当日の販売金額：約1,340万円

参加会員：(有)日高製材所

嶺北林材(協)

馬路林材加工(協)



② (株)ナゴヤ辻文 第1回土佐材フェア

開催日：平成29年12月15日(金)

場所：愛知県丹波郡大口町

(株)東海木材相互市場大口市場内

(株)ナゴヤ辻文大口営業所

来客数：買い方約70人

土佐材の販売量：約80m³

当日の販売金額：約550万円

(株)ナゴヤ辻文とは今年度から新たに高知県販売拡大拠点の協定を結びました。

来年度からは毎年5月頃の記念市で土佐材フェアを開催していただける予定になりました。

今回参加会員：(協)西部木材センター
嶺北林材(協)



平成29年度土佐材流通促進協議会事業予定 (1月～3月)

① 東京WOODコレクション2018

(消費地商談会事業)

開催日：平成30年1月30日(火)～31日(水)

場所：東京ビッグサイト7・8ホール

参加会員：(協)高知木材センター・

(協)ドライウッド土佐会・(株)吾川森林・

四万十町森林組合大正集成材工場・

高知県木製品工業連合(協)・

(株)土佐龍・(有)戸田商行



写真は昨年開催の視察時に撮影(29/1/19)

② 第8回優良土佐材見本市 (3市場合同市)

(展示会事業)

開催日：平成30年2月22日(木)

開催場所：(協)高幡木材センター

協同開催：(協)高知木材センター

(協)西部木材センター

前日2/21(水)の夕に県外の買い方の皆様との意見交換会を開催します。

高知市サウスブリーズホテル 17:00～



写真は昨年開催(29/2/22)

③ 韓国KOREABUILD2018

(木材輸出促進事業)

開催日：平成30年2月22日(木)～25日(日)

場所：韓国キョンヒャンKINTEXセンター

参加会員：池川木材工業(有)・

(株)吾川森林・丸和林業(株)・

(株)なかよしライブラリー



写真は一昨年の視察時に撮影(28/1/19)

④ 「土佐の自然素材で家づくり」商談会 in山口市

(消費地商談会事業)

開催日：平成30年3月8日(木)

場所：ゆ～あいプラザ山口県社会福祉会館

参加予定会員：梶原町森林組合・

(協)高知木材センター・(株)吾川森林・

(協)ドライウッド土佐会・

田中石灰工業(株)・(株)クロスロード・

高知県木材商業(協)高知プレカット



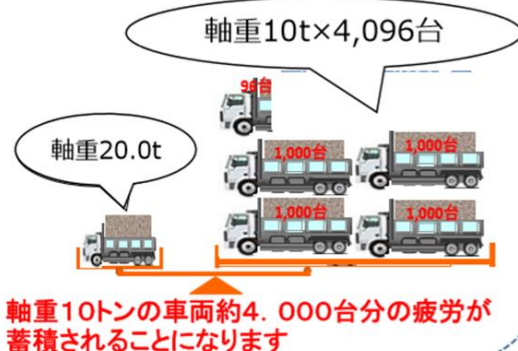
写真は昨年岡山での開催(29/3/7)

荷主の皆様へのお願い

一部の重量オーバーの車両が道路の劣化を早めています！
森林から切り出した原木などを、一定の大きさを超える車両（特殊車両）で運搬する場合には、道路管理者の「特殊車両通行許可」が必要になります。
運搬を依頼する際、運送事業者には、通行許可を取って、通行条件や重量を守るように働きかけをお願いします。

◇コンクリート床版への影響の試算

橋梁のコンクリート床版の劣化への影響度は、重量（軸重）の約12乗に比例



◇橋梁の路面に穴が開いた事例



重量オーバーの車が通行したため、床版（車両を直接支える部材）に穴が開いてしまった事例です。



国土交通省からの3つのお願い

1

適正な発注時期にご協力を

（運送事業者は、発注を受けてから通行許可取得までに一定の時間を要するため、余裕を持った発注と輸送計画の策定にご配慮願います）

2

適正な費用負担が必要です

（通行許可条件によって前後誘導車を配置する場合は適正な費用負担が必要です）

3

通行ルートによっては最大積載量まで積めません

（通行許可を受けた重量を超える積載はできません。許可重量は運送事業者にご確認ください）



MLIT

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

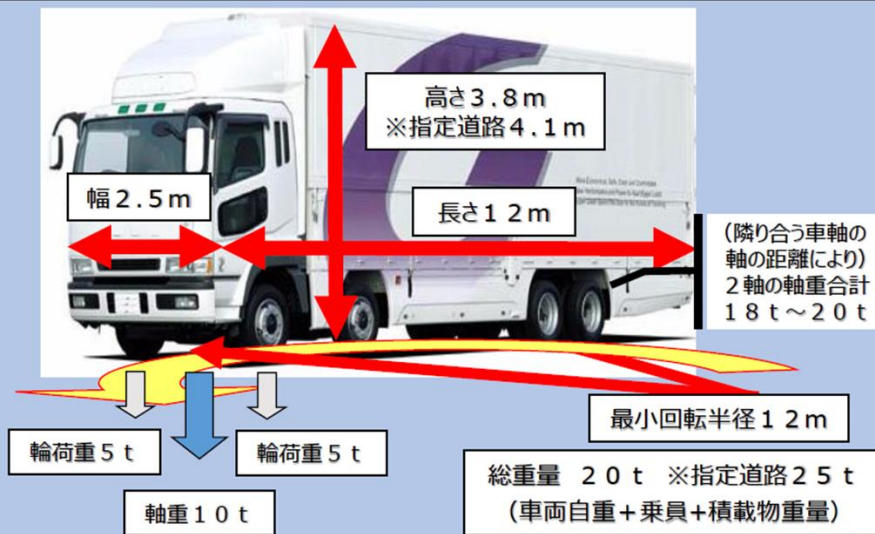
国土交通省道路局

道路交通管理課車両通行対策室

<特殊車両通行許可制度の概要>

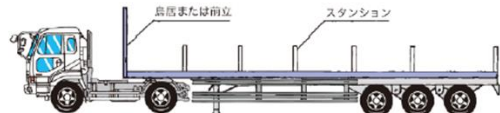
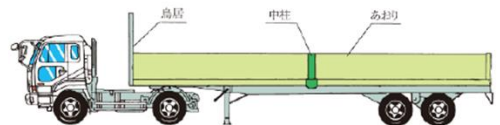
- ・道路は一定の規格の車両が安全・円滑に通行できるよう造られており、この規格を超える車両は、道路構造又は交通に支障を及ぼすおそれがあるため、原則として通行できません。（道路法第47条）
- ・車両の構造又は車両に積載する貨物を審査し、やむを得ないと道路管理者が認める場合に限り、道路の構造を保全し又は交通の危険を防止するため必要な条件を附して、車両の通行の許可する「特殊車両通行許可制度」がもうけられています。（道路法第47条の2）

車両制限令に基づく車両の一般的制限値



※車両の諸元が一つでも一般的制限値を超える車両の通行には許可が必要になります。

木材運搬で使用される主な特殊車両



住宅着工情報

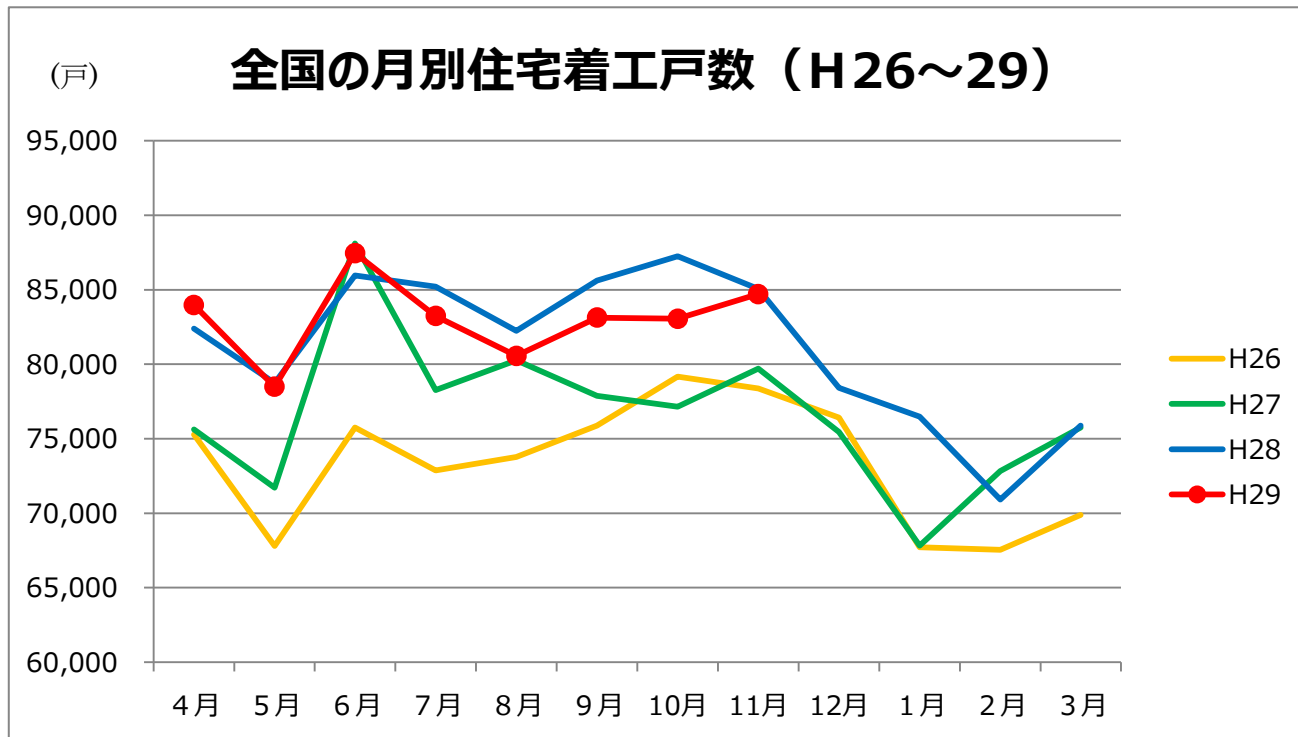
資料(1) 全国住宅着工戸数

平成29年 11月分着工新設住宅戸数：利用関係別・都道府県別表

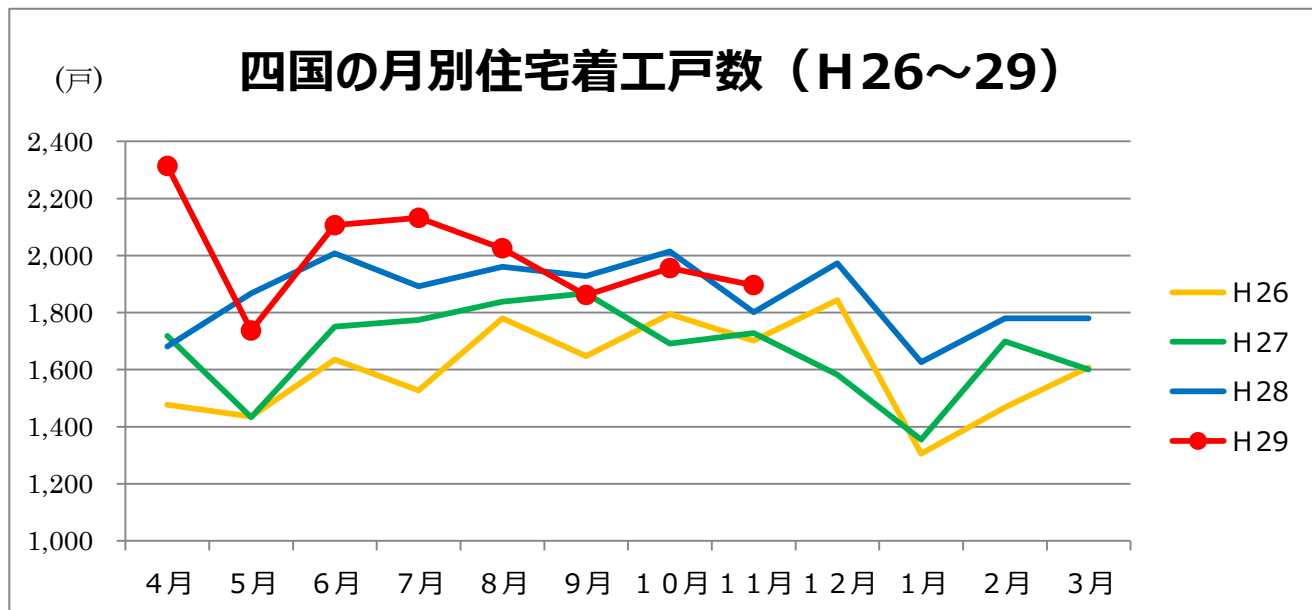
(単位：戸、%)

	総数		持家		貸家		給与		分譲		うちマンション		うち一戸建	
	戸数	対前年 同月比	戸数	対前年 同月比	戸数	対前年 同月比	戸数	対前年 同月比	戸数	対前年 同月比	戸数	対前年 同月比	戸数	対前年 同月比
北海道	3,455	-1.2	1,057	5.1	1,960	-2.5	25	-7.4	413	-9.0	191	-27.4	222	16.2
青森	570	-7.6	309	-7.2	145	-35.6	11	266.7	105	87.5	56	-	49	-12.5
岩手	810	10.1	389	4.9	332	1.8	4	300.0	85	123.7	48	-	22	-33.3
宮城	2,085	14.5	547	-6.7	1,214	28.3	19	5.6	305	12.5	36	-	247	-8.9
秋田	368	8.9	215	-0.5	119	24.0	2	0.0	32	33.3	0	0.0	32	33.3
山形	456	-11.5	261	2.0	151	-12.7	2	-	42	-51.2	0	-100.0	42	-38.2
福島	1,164	-16.8	507	-18.0	442	-21.9	8	-65.2	207	7.8	56	47.4	147	-4.5
茨城	1,779	8.5	790	-4.0	715	22.9	8	0.0	266	17.7	0	0.0	266	18.8
栃木	1,148	6.0	595	13.1	358	-1.4	3	50.0	192	0.0	0	0.0	192	0.0
群馬	1,125	-9.6	512	-11.4	422	-10.4	1	-	190	-3.1	0	0.0	190	-3.1
埼玉	5,520	6.9	1,376	2.5	2,019	-14.3	1	0.0	2,124	44.9	729	174.1	1,363	14.0
千葉	5,071	11.8	1,225	0.7	2,337	8.4	7	600.0	1,502	29.4	485	24,150.0	1,011	-11.9
東京	11,298	-1.5	1,248	-11.0	5,842	-1.8	116	157.8	4,092	0.5	2,286	-7.6	1,796	15.9
神奈川	7,073	-15.2	1,304	-7.6	3,177	-3.6	2	-	2,590	-28.7	892	-58.1	1,564	9.6
新潟	972	-18.6	543	9.7	347	-45.3	2	-80.0	80	45.5	0	0.0	80	45.5
富山	855	8.8	314	-0.3	483	12.1	5	-	53	32.5	0	0.0	53	32.5
石川	736	-6.6	304	-9.3	289	-26.6	0	-100.0	143	204.3	80	-	63	34.0
福井	437	41.0	169	-4.0	228	150.5	2	0.0	38	-7.3	0	0.0	38	-7.3
山梨	517	20.8	232	-13.1	188	35.3	1	0.0	96	357.1	56	-	40	90.5
長野	1,119	-1.3	555	-16.5	371	43.8	3	50.0	190	-9.1	73	-30.5	117	12.5
岐阜	1,214	24.8	543	3.8	404	35.1	3	50.0	264	77.2	106	-	158	6.0
静岡	1,820	-17.8	927	-12.0	532	-35.4	4	-75.0	357	11.2	98	66.1	259	-1.1
愛知	6,493	9.2	1,874	-9.3	2,549	-2.2	20	25.0	2,050	62.8	844	341.9	1,204	12.7
三重	900	9.2	425	-5.3	333	28.1	8	300.0	134	18.6	36	-	98	-11.7
滋賀	661	-21.4	375	-7.6	195	-19.1	1	-	90	-53.6	0	-100.0	83	-40.7
京都	1,169	-10.9	383	0.0	375	-33.9	0	-100.0	411	14.2	163	96.4	238	-14.1
大阪	6,123	2.2	983	-7.4	3,102	7.4	2	-33.3	2,036	-0.3	1,088	-6.5	948	9.2
兵庫	2,766	-7.9	881	-7.7	1,194	-4.3	40	150.0	651	-17.2	127	-67.3	524	31.7
奈良	616	3.0	256	2.8	135	-35.7	2	-	223	60.4	98	-	125	-10.1
和歌山	429	-15.6	223	-4.7	162	40.9	0	0.0	44	-72.3	0	-100.0	44	69.2
鳥取	252	-11.3	158	25.4	82	-19.6	1	-	11	-80.4	0	-100.0	11	0.0
島根	331	-29.9	132	-27.1	188	-32.9	1	-	10	-9.1	0	0.0	10	-9.1
岡山	1,151	-16.5	401	-18.3	596	9.4	1	-	153	-55.3	59	-76.6	90	0.0
広島	1,924	13.7	525	0.8	962	27.1	55	-	382	-7.7	106	-41.4	276	18.5
山口	512	-44.8	265	-19.7	208	-61.9	0	-100.0	39	-23.5	0	0.0	39	-23.5
徳島	381	19.4	183	-1.1	182	54.2	0	0.0	16	0.0	0	0.0	16	0.0
香川	583	15.4	241	4.8	267	39.8	0	0.0	75	-10.7	35	-31.4	40	21.2
愛媛	661	-1.5	313	-11.6	271	4.6	1	-	76	31.0	38	-	38	-34.5
高知	271	-11.4	162	8.0	88	-6.4	0	-100.0	21	-64.4	0	-100.0	21	5.0
福岡	3,922	6.8	865	5.5	2,114	-11.0	20	-68.8	923	124.0	495	638.8	428	32.9
佐賀	437	0.2	218	19.8	166	-29.4	2	0.0	51	200.0	0	0.0	51	200.0
長崎	707	36.0	269	27.5	269	28.1	0	-100.0	169	76.0	151	88.8	18	12.5
熊本	1,247	-16.7	661	-11.6	355	-36.2	10	42.9	221	18.8	136	126.7	85	-32.5
大分	681	39.5	275	13.6	290	90.8	3	-57.1	113	29.9	70	20.7	43	48.3
宮崎	504	-24.3	291	15.9	144	-58.0	2	100.0	67	-5.6	0	0.0	67	-5.6
鹿児島	770	-15.2	363	-11.5	236	-43.8	11	120.0	160	119.2	84	-	76	4.1
沖縄	1,620	53.3	260	7.4	970	35.7	0	-100.0	390	314.9	330	415.6	56	86.7
合 計	84,703	-0.4	24,904	-4.2	37,508	-2.9	409	30.3	21,882	8.7	9,052	9.5	12,580	7.7
北海道	3,455	-1.2	1,057	5.1	1,960	-2.5	25	-7.4	413	-9.0	191	-27.4	222	16.2
東北	5,453	0.5	2,228	-6.4	2,403	3.0	46	-2.1	776	16.3	196	250.0	539	-11.1
関東	34,650	-1.1	7,837	-4.8	15,429	-0.9	142	136.7	11,242	0.6	4,521	-9.2	6,539	7.9
北陸	3,000	-2.5	1,330	0.7	1,347	-13.1	9	-62.5	314	71.6	80	-	234	27.9
中部	10,427	4.7	3,769	-7.9	3,818	-4.3	35	-2.8	2,805	52.3	1,084	333.6	1,719	8.1
近畿	11,764	-4.0	3,101	-5.7	5,163	-2.0	45	114.3	3,455	-6.1	1,476	-18.9	1,962	6.2
中国	4,170	-12.3	1,481	-10.2	2,036	-8.7	58	5,700.0	595	-31.9	165	-65.5	426	7.6
四国	1,896	5.3	899	-2.2	808	22.1	1	-66.7	188	-13.4	73	-18.9	115	-9.4
九州	8,268	1.0	2,942	2.7	3,574	-16.7	48	-46.1	1,704	80.9	936	253.2	768	17.4
沖縄	1,620	53.3	260	7.4	970	35.7	0	-100.0	390	314.9	330	415.6	56	86.7
首都圏	28,962	-1.9	5,153	-4.1	13,375	-2.8	126	168.1	10,308	-0.2	4,392	-9.9	5,734	7.8
中部圏	10,427	4.7	3,769	-7.9	3,818	-4.3	35	-2.8	2,805	52.3	1,084	333.6	1,719	8.1
近畿圏	11,764	-4.0	3,101	-5.7	5,163	-2.0	45	114.3	3,455	-6.1	1,476	-18.9	1,962	6.2
その他地域	33,550	0.7	12,881	-2.7	15,152	-2.9	203	-3.3	5,314	24.3	2,100	59.0	3,165	8.2

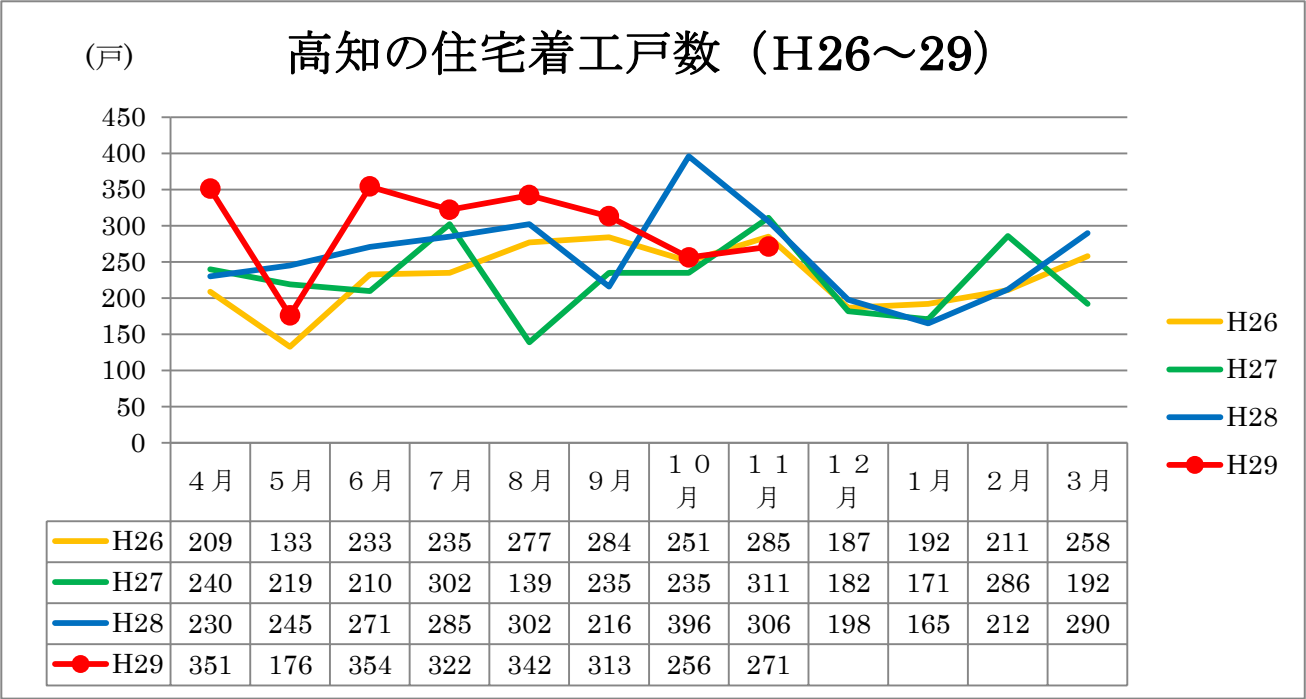
政府統計資料による



平成29年11月の全国の新設住宅着工数は84,703戸で前年同月より0.4%減と5ヶ月連続でやや減少した。持ち家(注文住宅)は、前年同月比では4.2%減の24,904戸と減少した。貸家も、前年同月比4.2%減の37,508戸と減少した。分譲住宅は、一戸建てが同7.7%増の12,580戸、マンションは同9.5%増の9,052戸と共に増加となった。今月は分譲が好調だったため、全体的にはやや微減となっている。賃貸はやや減少傾向だが、依然として高水準で推移しており、全体的に見れば今後しばらくは横ばい～やや減少傾向で推移しそうな見込み。今後資材の値上げの様相や、首都圏を中心にオリンピック関係の工事や海外旅行者の増加によるホテルの建設ラッシュ等もあり、建築関係者の人手不足や物流面でのトラック不足などが懸念される。



資料(4) 高知県の月別新設住宅着工戸数(平成 26～29 年 11 月まで)

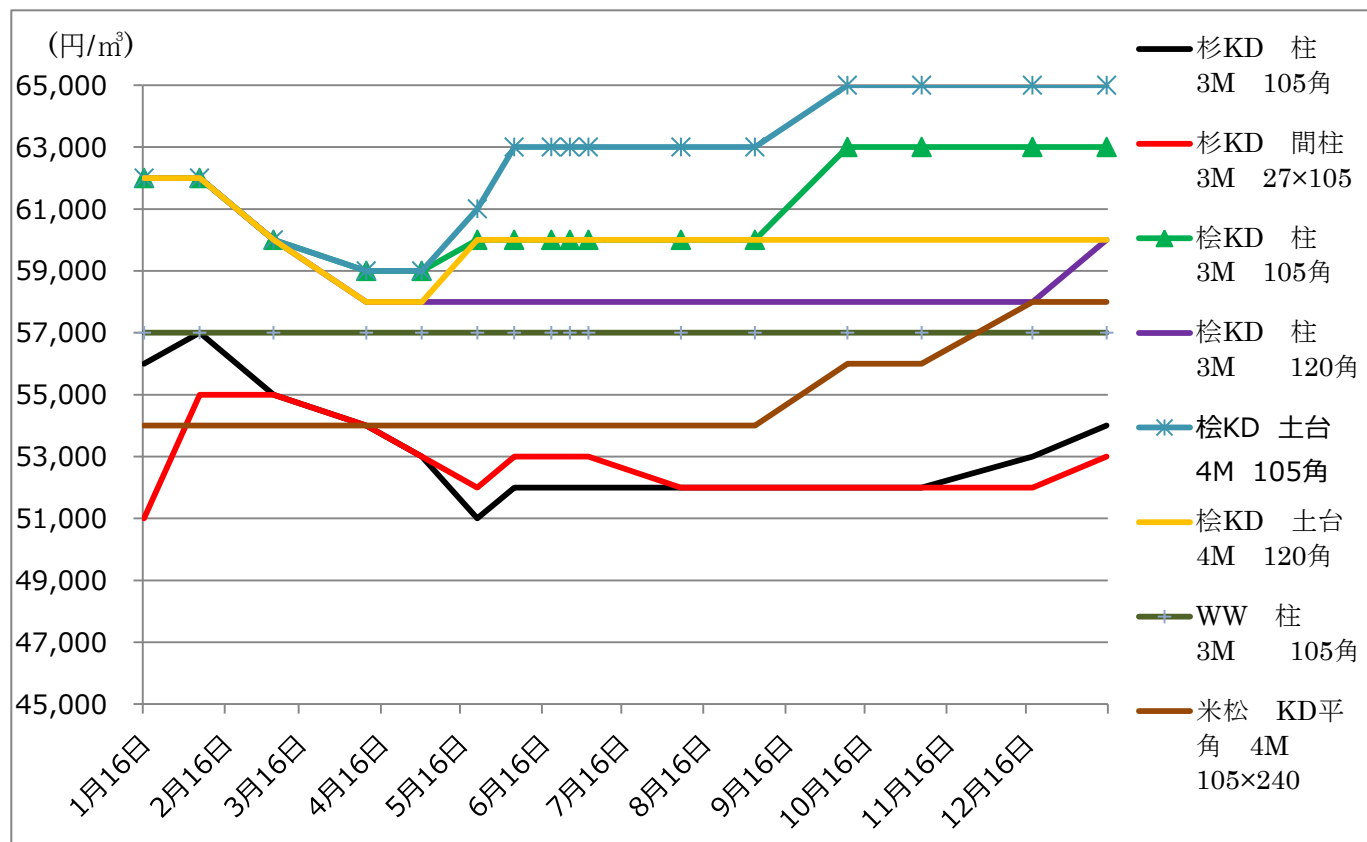


高知県の平成 29 年 11 月の住宅着工戸数は、前年度比 11.4%減の 271 戸となり、2 か月連続で大幅に減少した。持ち家は、前年同月比 8.0%増の 162 戸と増加した。貸家は時期調整もあるが 6.4%減の 88 戸と減少した。分譲は同 64.4%減の 25 戸で、マンションが無く、分譲住宅は 5.0%増の 25 戸だった。県内の新設着工住宅は、29 年度は全体的に好調を維持しているが、貸家と分譲マンションが全体を押し上げている。今後の見込みは横ばい～やや減少に推移する見込みである。



木材価格情報

資料(5) 製品市況 関東市売り場(29年1月～30年1月15日まで) 木材ウイークリー参照



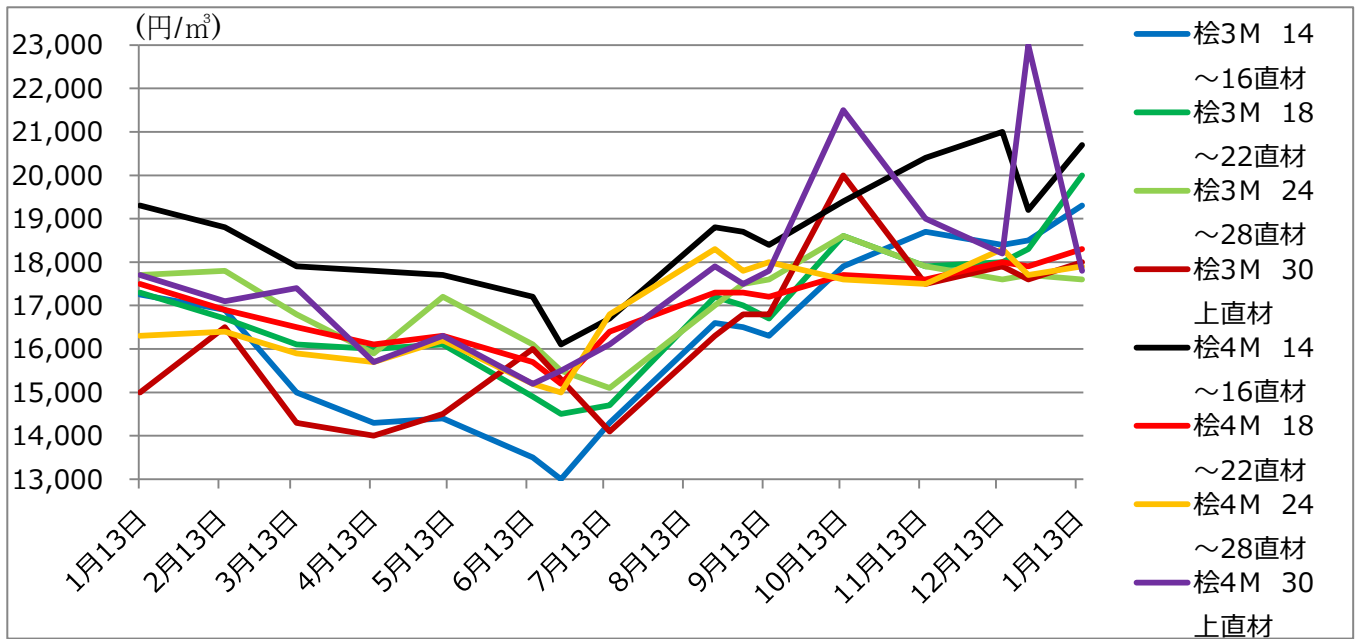
備考：同価格のものはグラフが重なって見えるものもあります。

平成30年1月の国産材製品市況は、プレカット工場等が需要期に入って総じて高めに稼働していて、桧土台や杉・桧柱角をメインにして一般構造材が強めで推移している。羽柄材、小割材なども安定的に推移し丸太価格も上昇していて、価格もジリ高で推移している。輸入材や集成材等は現地のラミナ高などの影響もあって、強保合で推移しており、米松KDや、RWは製品値上げが続いている。役物は昨年同様に引き合いが少なく、弱保合で推移している。現在、各消費地では地元の消費が好調で九州産製品の送りが少なくなっていて、市場・問屋などでは製品が確保しにくくなっており、今後暫くは一般材を中心に強保合で推移する見込みである。



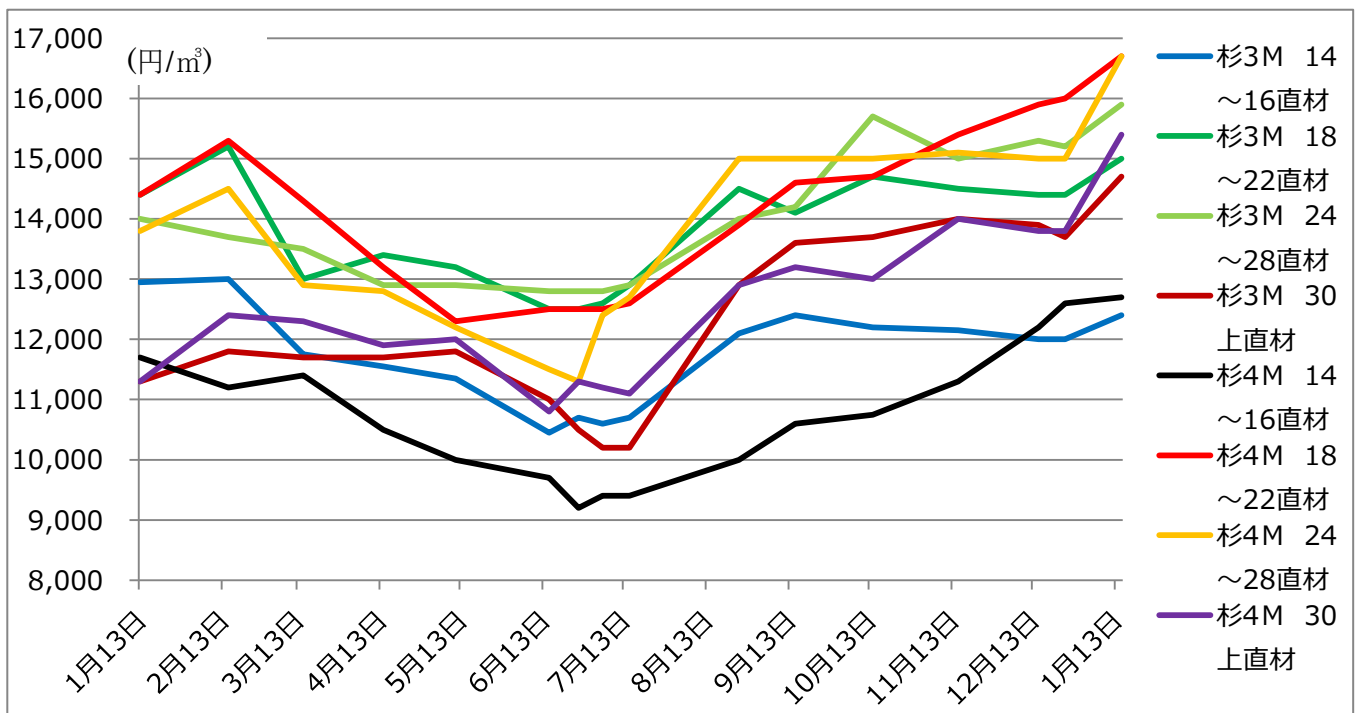
写真は丸宇木材市売(株)下館市場(11/17)土佐材展示会

資料(6) 平成 29 年～30 年丸太市況 桧 3～4m (久万広域森林組合分) 平成 30 年 1 月 13 日迄



平成 30 年 1 月の桧及び杉の丸太価格は、一般材を中心に製品の荷動きが好調な中で、年末にはやや出材が増加しても工場の在庫が少なく、価格もすべての部材が強保合で推移していた。さらに年明けからは年末～年始の休暇や雪の影響で出材が大幅に減少し、ほぼ全面高で推移している。製品需要は土台・柱角などの構造材や筋交いを中心とする羽柄材、小割材の荷動きが引き続き好調で、各市場・問屋とも製品在庫が少ないため、年度末の 3 月位まではこのままの水準で丸太も強保合～保合になる様相である。合板用丸太やラミナ用、梱包用材、チップ・バイオマス用材等の低質材も強保合で推移している。また、役物は一部商品を除いて現在は弱保合で推移しているが、丸太不足により保合～強保合に推移して行くと思われる。今後は出材の増加が待たれる。

資料(7) 平成 29 年～30 年丸太市況 杉 3～4 m (久万広域森林組合分) 平成 30 年 1 月 13 日迄



1月の商況

平成30年1月の商況は、全体では需要期に入りプレカット工場の稼働が全国的に高めの水準で推移していることや、輸入材の値上げが続いていることなどから、国産材製品相場は、KD構造材を中心に引き合いが多く、強保合で推移している。また、役物需要は、全体的には低調な推移になっており、全国的に弱保合が続いている。また、米松やRウッド集成平角は現地丸太高などにより値上げ基調で推移しており、Wウッド集成管柱は保合～強保合、構造用合板は強保合で推移している。今後は年末～年始の休暇や雪の影響で出材が減少しており、丸太・製品とも強保合でスタートしている、このまま暫くは続く様相である。今後は、丸太の出材増加が期待される。

(1) 丸太相場

1月の四国の国産材丸太相場は、年末～年始の休暇や雪の影響もあり出材が減少しているなかで、製品需要が全体的に好調で、それに合わせて年明けの丸太価格も全面高で推移している。また、合板用やラミナ用、梱包用、チップ用やバイオマス用の低質材は、サイプレス・スナダヤの稼働や愛媛のバイオマス発電も始まり、こちらも全体的に強保合で推移しており、一般材と低質材の価格差が少なくなっている。選木は製品の荷動きは弱保合だが、丸太減で保合～強保合で推移している。今後は、製品需要もしばらくは好調に推移する見通しで、出材の増加が待たれており、当面は強保合で推移する見込みである。



久万広域森林組合 1月15日相場表

杉				桧	
長さ	末口計	直	曲	直	曲
3.00	8～11	357	357	383	383
	12	10,000		13,100	
	13		10,000		13,100
	14	10,300	9,400	16,000	15,600
	16	14,500	12,800	22,500	19,700
	18～22	15,000	12,800	20,000	18,100
	24上	15,900	12,800	17,600	16,600
	30上	14,700	13,600	18,000	14,900
4.00	8～11	464	464	480	480
	12	12,000		15,300	
	13		12,000		14,500
	14～16	12,700	11,300	20,700	18,000
	18～22	16,700	14,700	18,300	17,400
	24上	16,700	14,200	17,900	16,200
	30上	15,400	13,700	17,800	16,600
6.00	18上	17,600	14,700	30,500	24,500

(注) 3桁は本売り、それ以外は㎡あたり円

(2) 国産材製品相場

1月の国産材製品は、全国的にプレカット工場の稼働が高く、製品桧 KD 土台角や桧・杉 KD 柱角等の構造材や桧・杉筋交い・間柱等の羽柄材、小割材など引き合いが多く、また九州での地元需要が好調なことから各地への出荷が少なく、全国的に強保合で推移している。今後は年度末までしばらくはこの様相で推移する見込み。役物は全体的に低調で、一部注文材等で引き合いがあるものの、役柱や敷居・鴨居材等は、保合～弱保合で推移していて、役物工場は価格・販売面で苦戦している。



首都圏市場の木材標準相場表 (単位円/㎡)

品目	樹種	寸 法	等級	12月	1月
柱角	杉 (KD)	3M 105mm角	特 等	54,000	54,000
間柱	杉 (KD)	3M 30×105mm	特 等	53,000	53,000
柱角	桧 (KD)	3M 105mm角	特 等	63,000	63,000
柱角	桧 (KD)	3M 120mm角	特 等	60,000	60,000
土台角	桧 (KD)	4M 105mm角	特 等	65,000	65,000
土台角	桧 (KD)	4M 120mm角	特 等	60,000	60,000

(3) 米材

1月の国内挽き米松製品は、カナダからの供給の減少や米国内需要が相変わらず好調で現地の丸太需要が活発なことに加えて中国向けの丸太輸出も堅調なことで需給が旺盛で、産地価格が急騰していて全面高となっている。このため、大手国内製材挽きの製品は昨年下半年に2回の製品値上げに踏み切り、1月にも小割・小角・グリーン材の値上げを行っている。今後もしばらく丸太価格は続伸気配で、強保合で推移する見込みである。輸入製品も同じく強保合で推移している。色物は全体的に品不足で強保合、米ツガも米松同様強保合で推移している。

首都圏市場の木材標準相場表(国内挽き) (単位円/㎡)

	樹種	寸 法	等 級	12月	1月
平角	米松KD	4M 105×270mm	特 等	59,000	59,000
平角	米松グリーン	4M 105×270mm	特 等	48,000	48,000
角材	米松KD	4M 105mm角	特 等	60,000	61,000
角材	米松KD	4M 90mm角	特 等	60,000	61,000
刳キ	米松KD	4M 45× 45mm	特 等	60,000	61,000
筋交い	米松グリーン	4M 45×105mm	特 等	48,000	48,000
注入土台角	米ツガ	4M 105mm角	特 等	56,000	56,000

首都圏市場の木材標準相場表(輸入品) (単位円/㎡)

角材	米松KD	4M 105mm角	特 等	53,000	54,000
平割	米松KD	3M 45×90mm	特 等	55,000	55,000
刳キ	米松KD	4M 45×60mm	特 等	57,000	59,000

(4) 欧州材・ロシア材

1月の欧州材は、産地価格が全面高の様相とユーロ高で輸入コストは大幅に上がる見込みだ。特にラミナは代替品が無いだけに、集成材メーカーは製品への価格転嫁を進めているがラミナコストに価格転嫁が追い付かない状況だ。Rウッド集成平角は6万円台から値上げが続いている。一方、Wウッド集成管柱は、杉集成管柱の価格が相場の重しになって、1,900円前後で推移している。WウッドKD間柱は以前3Mの在庫が多く、値上げの動きは見られない。需要期に入り、今後全体的には強保合で推移する見込み。

ロシア材も現地価格が値上げ基調で輸入製品が減少している中、ホームセンター向けの製品出荷が好調だが相場を押し上げるほどの力は無く、価格は保合で推移している。

首都圏市場の木材標準相場表 (単位円/㎡)

	樹種	寸法	等級	12月	1月
集成平角(国産)	Rウッド	4M 105×240mm	特等	61,000	61,000
集成管柱(国産)	Wウッド	3M 105mm角	特等	1,890	1,890
間柱(欧州産)	Wウッド(KD)	3M 27×105mm	特等	50,000	50,000
集成平角(欧州産)	Rウッド	4M 105×240mm	特等	61,000	61,000
集成管柱(欧州産)	Wウッド	3M 105mm角	特等	57,000	57,000
ラミナ	Wウッド	乱尺		39,000	39,000
ラミナ	Rウッド	乱尺		40,000	40,000
ロシアタルキ	アカ松KD	3.8M 35×35mm	特等	62,000	62,000
ロシア胴縁	アカ松KD	3.8M 16×40mm	特等	70,000	70,000



(5) NZ・チリ材

1月のNZ・チリ材は、現地の丸太に中国・韓国の引き合いが強く高値が続いている。製品は、チリ輸入製品の供給がタイトで価格も上昇しているため、NZラジアタ松国内挽きの代替受注が増加したことや、パレット需要は落ち着いてきたが、木箱中心に輸出用梱包需要が高まっており、荷動きは順調に推移している。これにより、各大手製材メーカーも年明けから製品値上げを打診している。また杉製品については、大手メーカ(オービス)の生産量の動向が注視されている。

梱包関連標準相場表 (単位円/㎡)

	樹種	寸法	等級	12月	1月
割板	ラジアタ松	4M 15×240mm	特等	40,000	40,000
割角	ラジアタ松	4M 27×85mm	特等	38,000	38,000



(6) 針葉樹合板

1月の国産針葉樹合板は、需要期に入り直需ルート・木建ルートとも需要が旺盛なことや、年末年始の物流の不足で一部納期遅れが出るなどもあり、荷動きは堅調で強保合で推移している。これに対応して、国内合板メーカーは過去最高の水準で増産体制を続けてきているが、多くの出荷が続く中でも在庫水準は依然として低いままで、年明けも住宅だけでなく年度末完工にむけた非住宅物件もあり、しばらくは強保合で推移する様相である。

首都圏針葉樹構造用合板関連相場表 (大阪地区) (単位円/枚)

	樹種	寸法	12月	1月
針葉樹構造用合板	JAS	12mm 910×1820mm	1,030	1,030
針葉樹構造用合板	JAS	15mm 910×1820mm	1,360	1,360
針葉樹構造用合板	JAS	24mm 910×1820mm	1,950	1,950
針葉樹構造用合板	JAS	28mm 910×1820mm	2,270	2,270



(7) プレカット

全国の1月のプレカット会社の受注状況は、本格的な需要期に入り一部には受注格差が見られるものの全国的にはフル生産体制となっている。大手ビルダーの分譲住宅・賃貸住宅の需要が堅調な上、年度末完工の中大規模の非住宅物件も需要期に入っている。ただし、昨年末からの積み残し等があり、1月は好調だが、2月以降は徐々に低下する見方が強まっていて、新規物件の見積り・成約が増えていない。また、資材がRウッド集成平角や、米松関係の製品、国産材も桧KD土台や杉KD管柱も供給が少なく強含んでいるため、プレカット工場の収益を圧迫していて、価格転嫁が必須となってくる様相である。また合板も強基調で、受注のある工場では仕入れを強化している。現在も職人の人手不足、ドライバー不足で分譲住宅や賃貸住宅、非住宅物件等で現場作業に遅れが出ており、今後の対応が必要となってくる。

12月のプレカット稼働調査 (全国平均表) (単位：%)

	12月 (実績)	前年比	1月 (受注)	前年比	2月 (見込)	前年比
北海道	115.9	94.0	93.0	99.0	99.0	117.3
東北	94.0	85.0	80.0	85.0	75.0	79.0
関東	104.0	100.3	98.6	100.3	94.0	98.1
中部	105.9	126.1	98.7	124.0	91.0	120.3
関西	96.0	95.0	87.0	110.6	92.5	92.5
中国	132.5	94.5	115.0	126.5	83.0	92.0
四国	90.0	75.0	95.0	165.0	90.0	100.0
九州	114.5	100.0	94.5	102.0	—	—
全国平均	106.6	96.2	95.0	114.0	89.3	100.5

平成 29 年の国産材需要と平成 30 年からの見通し

1. 平成 29 年の国産材需要

- ① 平成 29 年の国産材需要は、新設住宅着工数は消費税増税先延ばしがあったものの、大手の分譲系ビルダーと賃貸が中心となったが、90 万戸は超える見込みで昨年並みの需要があった。
- ② 九州の需要が福岡を中心に好調で、また熊本地震からの復興も始まったことや、九州豪雨の影響等で出材も減少したため、各消費地へのKD材の供給が減少した。そのため、各消費地の市場・問屋筋が他産地にも積極的に手当てを行った。
- ③ 国内最大手メーカー（スナダヤ）が米ヒバ土台の製造から撤退し、米松・米ツガ防腐土台も現地価格の高騰で、入荷増が見込めないことにより、桧KD土台に需要が一年を通して増加し、今後も一段強で続く見込みである。
- ④ 米松がアメリカとカナダの貿易紛争や山火事による供給低下、国内需要が堅調なことや中国向けが好調なことなどにより、現地丸太価格が高騰し、今後しばらく続く見通しで、日本の購買力が低下している。
- ⑤ 欧州材も地元や、中近東・北アフリカの堅調な需要に加え、中国・北米向けの輸出が急増しており、ラミナや構造用集成材・羽柄材の産地価格が上昇している。国内ではRW集成材は需要があり価格も上昇しているが、WWは国産材との競合で値上げが浸透せず、苦戦している。
- ⑥ NZ・チリ材も中国向けが強基調で現地価格も上昇している。また、西日本では安価な杉・桧の梱包材もシェアをとっており、しばらくはこの傾向が続く見込みである。
- ⑦ 小割材用のロシア材もアカマツ原板の入荷も少なく、価格も高止まっている、競合する米松製品やポプラLVLも値上げ基調にあり、国産KDの製品は強基調で推移している。
- ⑧ 住宅着工が堅調なことや熊本地震の影響等もあり、耐震補強が好調なことなどにより杉・桧のKD3M・4M×45×90・105mmの需要も好調であるが、27・30mm間柱はWWがあり需要はあるが値上げは厳しい様相である。
- ⑨ 杉・桧KD柱材も105mm角が好調で推移したが、WW・杉集成管柱との競合で、大幅な価格上昇はなかった。
- ⑩ 国産材役物は、需要減により年間を通して数量・価格共に低位で推移した。特に高知県の場合は、公共工事が杉に偏ったこともあり、桧の役物が年間を通して低調だった。



- ⑪ サイプレスの大型工場稼働や、バイオマス発電が愛媛でも稼働し始めまた国産針葉樹合板も好調なことから、低質材は年間を通して高水準で推移し、全体の価格を押し上げている。
- ⑫ 一般材を中心に製材品の需要が好調だったが、秋口になっても製材用材の出荷量が全国的に低調で、(特に四国島内は低調だった。) そのため、価格も年間を通して高い水準で製材工場は仕入れ等に苦労した。
- ⑬ 消費地での販路拡大も必要だが、地元(高知市内)の市場等への県内メーカーのKD材の出荷も極端に少なくなっていて、県外から手当てしている。特に杉材は一般材・役物とも県外依存が高くなっている。

2. 平成 30 年の見込み

- ① 新設住宅着工数は、賃貸住宅の推移次第だが、消費税増税前であり、平成 29 年よりやや横ばい～減少の見込みだが、オリンピック関係等の工事が集中するため、大工さん等人手の確保が大きな課題となりそうだ。
- ② 現在の木造住宅のハウスメーカーの使用部材に関しては、性能保証や高気密・高断熱等もあり、構造材は土台部分を除いては(梁・柱等)集成材の比率が高まっていく見込みである。
- ③ 役物は一部の城・神社仏閣を除いては(あくまでスポットとなる)大幅な需要増加は見込めない様相
- ④ 外材は世界各国が好調なため、現在より横ばい～強保合で推移する様相。そのため、国産材需要のシェア拡大のチャンスで、供給があれば平成 29 年の同等以上で推移する様相である。
- ⑤ 合板・バイオ・梱包・ラミナ等は工場新設も含め今後しばらくは好調に推移する見込みで、素材の確保が重要になる。
- ⑥ 丸太の供給が大幅には増加しない見込みで、平成 30 年も四国島内では素材確保が大きな課題になってくる。



3. 平成 31 年以降に向けて

- ① 今後数年は外材が高止まりする見込みで、国産一般材の需要は、
 桧 土台・柱(3・4M105mm 角、90mm 角)・間柱・筋交い(45mm が中心)・小割材
 杉 柱・間柱・筋交い(45mm が中心)・板類(30mm 破風板等)・
 小割材(貫、野縁、胴縁)などのKD材が中心になってくる。
 また、素材の大幅な生産増加の見込めない中で、製品の生産増加のためには適寸部位以外の丸太(大径木)での生産も課題となってくる。
 今後、供給量が増加するためには、工場新設が見込まれない中では現状企業の乾燥機・加工機の新設・増設が必須となる。
 この部分に関しては行政の積極的な支援が求められる。
 また、近い将来必ず訪れる建築需要減に対応するために、現在出来るだけのシェア獲得が求められる。

- ② 役物需要は今後住宅部分では増加が見込めないが、住宅の空調等により、高度な乾燥材が市場から求められている。このため、役物の乾燥も大きな課題となる。(上記と同じ)
また、一般住宅での役物市場が縮小していく中で今後は、非住宅(店舗等への内装材も含む)への採用や、住宅用材以外の分野(化粧箱・家具など)への採用、または海外への販売など新たな需要開拓が必要となる。
- ③ 製材品等の供給にあたって、素材の安定供給が一番の課題となってくる。
現状全国でも四国が丸太の供給が最も不安定であり、これに関しては四国島内での連携が必要不可欠になってくる。

4. 新設住宅の 2020 年(新元号 2 年)問題(新建ハウジング等より)

住宅産業は 2020 年に大きな変化をむかえて、市場が縮小していく見込みで 10 の項目で課題が出ている。



- ① 東京五輪需要・消費税増税駆け込み需要の反動減デフレ市場になり、新設から中古住宅へのシフトが進む。
- ② 2019 年(平成 31 年・新元号元年)をピークに総世帯数が減少へ。(世帯割れ) 少子高齢化により 30 代ファミリー世帯を中心とする購買層は 2010 年(平成 22 年)比 2 割超減
- ③ 新設住宅着工件数は 2020 年の予想では 2015 年(平成 27 年)比約 2 割減、79 万戸か? 持ち家市場が 2020 年度に 2 割減の 23 万戸への見込みである。
- ④ 全国空き家比率は 2015 年(平成 27 年)の 13.5%から 20%超へ。(地方はもっと高くなる見込み) 空き家活用が国家的な課題になる。
- ⑤ 国が既存住宅+リフォーム市場倍増で 20 兆円市場を目標とする。
- ⑥ 団塊世代が後期高齢者となり、高齢者施設不足が加速する見込みである。
- ⑦ 省エネ基準適合義務化、新築の過半数 ZEH 化目標
耐震への関心の高まりや、高気密・高断熱の省エネ住宅が義務化となり、住宅部材は乾燥が必須で、性能・品質が安定している集成材のシェアがますます加速する。
- ⑧ 訪日外国人旅行者は 2020 年に倍増~4000 万人目標
- ⑨ 大工の数は 1980 年(昭和 55 年) 93.7 万人~2015 年(平成 27 年) 37.2 万人~2020 年(新元号 2 年) 31 万人へと減少する見込み。また、高齢化も進んでおり建築業界は大工不足が顕著となっている。今後益々減少し、2030 年には 20 万人に減少するかもしれない。
- ⑩ 「働き方改革」の法制度化、罰則規定がスタートへ

日曜市の取組

高知県木材協会は「高知県産木材の普及促進事業」として日曜市に1コマ分の街路市臨時出店許可証を得ています。現在のところ高知県木製品工業連合協同組合のメンバーを中心として毎週交代で活用していますが、平成30年度の予定につきましては新たに出席する希望の方があれば調整できます。木材協会の事務局までお申し込み下さい。



今年度より新たに参加したフォレスト（写真は平成30年1月21日撮影）

平成29年度の予定表

平成30年2月4日	クルミ工房
11日	(株)井筒屋
18日	フォレスト
25日	(株)なかよしライブラリー
3月4日	クルミ工房
11日	(株)井筒屋
18日	フォレスト
25日	(株)なかよしライブラリー
平成30年度	
4月1日以降未定	



やっぱり冬は寒いです。

第5回

CLT建築推進フォーラム in KOCHI

日時:平成30年2月15日(木) 13:30から16:30

会場:ちより街テラス 3階 ちよテラホール

高知市知寄町2丁目1-37

〔とさでん交路面電車「知寄町二丁目」電停より徒歩1分
3階無料駐車場がご利用いただけます〕

住宅以外の建築でも木材を使った魅力のある建物がたくさん建てられています。
今回のフォーラムでは、木材を使用する面白みや、これからの期待について、国内外の建築事例などを通じた講演をいただきます。
木材を使った建築に興味のある多くの方のご参加をお待ちしています。

プログラム (予定)

13:30~13:40 開会挨拶

講演①
13:40~14:20 (40分) 「これまでの都市木造・これからの都市木造」
内海彩建築設計事務所 内海 彩 氏



講演②
14:20~15:00 (40分) 「近作・木造」
艸建築工房 横畠 康 氏



15:00~15:10 休憩

講演③
15:10~15:50 (40分) 「イギリスにおけるCLT建築の現況」
エムロード環境造形研究所 小見山 陽介 氏



講演④
15:50~16:20 (30分) 「森と都市の共生 - 都市木造の可能性 -」
東京大学生産技術研究所 教授 腰原 幹雄 氏



16:20~16:30 閉会挨拶

- 申込み: 申込書ご記入の上、2月9日(金)までに事務局あてにFAXまたはメールでお申し込みください。
- 定員: 100名(先着順) ●参加費: 無料
- 後援: 一般社団法人日本CLT協会
CLTで地方創生を実現する首長連合



＜主催・お問い合わせ先＞
CLT建築推進協議会事務局 〒783-0055 南国市双葉台7番1(高知県森林組合連合会内)
TEL:088-855-7050 FAX:088-855-7051 <http://www.clt-kenchiku.org/>

合法木材供給事業者研修及びクリーンウッド法説明会のご案内

合法木材供給事業者は3年間に1度は必ず研修を受講することが義務付けられています。

高知県内の合法木材供給事業者認定団体は現在3つの団体があります。

- ① 高知県森林組合連合会
- ② 高知県素材生産業協同組合連合会
- ③ 一般社団法人高知県木材協会

平成29年度は3年に1度の研修会開催の年に当たりますので、認定3団体合同での研修会を下記日程のとおり開催します。合法木材供給事業者の方は2日間のどちらかに必ずご参加ください。

四万十会場

日時：平成30年2月6日(火) 13:30～15:30

場所：中村建設会館会議室（四万十市右山元町3-3-26）

高知市会場

日時：平成30年2月7日(水) 13:30～15:30

場所：高知市福祉交流プラザ 多目的ホール（高知市朝倉戊375-1）

スケジュール（両日とも）

13:30～ 主催者挨拶

13:35～ 合法木材利用促進事業の説明

講師：高知県素材生産業協同組合連合会専務理事 西村 秀雄 氏

14:30～ クリーンウッド法についての現状説明

講師：一般社団法人全国木材組合連合会 加藤 正彦 氏

15:20～ 質疑応答

15:30 閉会

参加者には受講証書をお渡しします。



写真は平成26年11月27日四万十会場での講習会の様子

第8回

優良土佐材見本市

県内3市場合同市



■ 開催日時

平成 **30**年 **2**月 **22**日 (木)

■ 会 場

(協) 高幡木材センター

高知県高岡郡四万十町東大奈路505

TEL 0880-22-1241

午前 **9**時**30**分 開市 **役物類**

午後 **1**時**00**分 開始 **一般材** 昼食は準備しております。

優良土佐材を多数出品していますので
多くのみなさまのご参加をお待ちしております！

- 主催 土佐材流通促進協議会
- 共催 (協) 高知木材センター
(協) 高幡木材センター
(協) 西部木材センター
- 後援 高知県・高知県木材市場連絡協議会

□■ お問い合わせは ■□

土 佐 材 流 通 促 進 協 議 会

〒780-0801 高知市小倉町2-8

TEL088-883-6721

FAX088-884-1697

(担当：嶋崎・松岡・福原)

平成 29 年度 高知県木材普及推進協会

愛媛県製材工場視察・研修旅行のご案内

((株) サイプレス・スナダヤ、八幡浜官材協同組合)

日頃は、当協会の運営にご協力いただきありがとうございます。表記の通り、平成 29 年度の視察・研修旅行開催が決定しました。ご多用中恐縮ですが、多くの方のご参加をお待ちしています。

日程表

[予定表]

平成 30 年 3 月 2 日(金)

10 : 45 出発(西島園芸団地駐車場) ～ (12 : 00～13 : 00)各自 SA で休憩・昼食
～ (13 : 15～15 : 00) (株)サイプレス・スナダヤ視察・研修 ～

16 : 00 ホテル着 (ネストホテル松山) ～ 18 : 30 ネストホテル会場で懇親会開催

平成 30 年 3 月 3 日 (土)

8 : 30 ホテル発 ～ (10 : 00～11 : 30) 八幡浜官材協同組合視察・研修 ～
(11 : 40～12 : 30) 道の駅清流の里ひじかわで昼食 ～ (13 : 40～14 : 00)
～ 道の駅布施ヶ坂で休憩 ～ 15 : 30 到着(西島園芸団地駐車場)

【料金】 バス代金は無料 (高速代含) 集合場所までの交通費・ホテル代金

(8,000 円) ・懇親会代金 (ネストホテル松山、6,000 円) 昼食(1 日目各自、2 日目 1,300 円)等飲食代は各自負担になります。(ホテル代、懇親会代金、2 日目昼食代計 **15,300 円**は、当日バス乗車時に集金します。)

なお、懇親会・2 日目昼食は全員参加となります。

[定員] 約 30 人 (先着順になります。)

[申込方法] 下記に必要事項をご記入の上、F A X にてお申込みください。

[申込締切] 平成 30 年 2 月 16 日 (金)



申 込 書

会 社 名			
参加者名		年齢	禁煙 ・ 喫煙
連絡先 (携帯電話)			

上記項目に記入の上、FAX 又はメールでご連絡ください。 お問い合わせ先 高知県木材協会 担当 松岡徹
TEL : 088-883-6721 FAX : 088-884-1697 E-mail info@k-kenmoku.com

林業 大学学校

第129回
日本森林学会
シンポジウム



基調講演

林業学校のめざすもの
～森林文化アカデミーの実例から

川尻 秀樹氏 (岐阜県立森林文化アカデミー 副学長)

講演

林業大学学校はいま

～林業の担い手はどのように育まれるか

田村 典江氏 (総合地球環境学研究所プロジェクト上級研究員)

林業大学学校が将来の林業の担い手を育てる場として期待されています。近年、林業を専門に教える学校の設立が相次いでいます。

いまなぜ林業人材育成が必要なのか。どのような人材が求められており、社会や地域は彼らに何を期待しているのか。そこに人材育成の場である林業大学学校はどのような役割を期待され何を目標にすべきなのか。そして学校や卒業生に研究者や教育者がどのように関わり、学会や行政はどのように支えていけばよいのか。

林業大学学校に関わる様々な課題について、現在の課題と将来の展望を考える場とします。



写真提供: 高知県

お問い合わせ

第129回 日本森林学会大会運営委員会
(国立大学法人 高知大学 農林海洋科学部 担当: 松本)

E-mail jfs129@kochi-u.ac.jp

主催: 一般社団法人 日本森林学会・公益社団法人 国土緑化機構「緑と水の森林ファンド」助成事業
後援: 高知県、国立大学法人 高知大学

参加無料

[定員 500名]

事前の申し込みは不要です。
一般の方も是非ご参加ください。

2018年
3.26 月

13:30～17:00

[開場 12:30～]

高知県立県民文化ホール
グリーンホール



※ご来場には公共交通機関をご利用ください。 定 検 票

行事予定 平成 30 年 2 月・3 月

2 月	6 日(火)	合法木材供給事業者研修 (四万十市・中村建設会館)
	7 日(水)	〃 (高知市・福祉交流プラザ)
	14 日(水)	国の森林環境税(仮称)等説明会(高知市・高知会館)
	15 日(木)	C L T フォーラム (高知市・ちより街テラス)
	22 日(木)	優良土佐材見本市 (高幡木材センター)
	27 日(火)	公益社団法人高知県森と緑の会理事会
3 月	2 日(金)・3 日(土)	木推協視察研修旅行 (サイプレス・スナダヤ、八幡浜官材)
	8 日(木)	「土佐の自然素材で家づくり」商談会 (山口市)
	8 日(木)・9 日(金)	岡山扇木材第 6 回土佐材まつり(ナイス岡山市場)
	上旬	高知県木製品工業連合協同組合勉強会
	中旬	高知県労働基準協会労働福祉部会
	末頃	高知県木材協会理事会

次世代へつなぐウッドファースト社会目指して

木を育て～木に親しみ～そして木を活かす



もくもくランド、帯屋町アーケード内では「箱のおうち工作」が人気でした。(29/11/28)

一般社団法人高知県木材協会

〒780-0801 高知市小倉町 2 番 8 号

TEL:088-883-6721 FAX:088-884-1697

<http://www.k-kenmoku.com>